

東海道五拾参次

橋 本 たねひろ

32、白須賀（しらすか）一汐見阪図 遠江国・静岡県湖西市

荒井から海岸近くをしばらく歩き、樹木が
うっそうと茂る急な坂を登り、振り返ると遠州灘
が見える光景は昔から絶景として知られ、
「汐見坂」と呼ばれました。

絵は中央をへこませたダイナミックな構図で
遠景に広々とした遠州灘を見せ、坂上から大名
行列の笠が松林の中を下ってゆく図で、坂の上が
白須賀宿、荒井から6.5 kmです。



33、二川（ふたがわ）一猿ヶ馬場 三河国・愛知県豊橋市



白須賀を出て境川の橋渡し、境川はその名のとおり、
遠江国と三河国の国境、同時に静岡県と愛知県の県境
でもあります。三河・二川宿の手前には猿ヶ馬場と呼
ばれる丘陵があり、小松が生えた寂しい原野です。

絵はその中を通り、三味線を持って二川へと向かう
3人の「ごぜ」（盲目の女遊芸人）、茶店には旅人の客、
「名物かしわ餅」の看板が掛かっている図です。

茶店で一息ついたら白須賀から5.8 kmの二川宿はもうすぐです。

34、吉田一豊川橋 三河国・愛知県豊橋市

二川宿から6.1 kmの吉田宿は明治2年豊橋と
改称されましたが、三河随一の繁栄した城下町で、
吉田城は譜代大名が詰めていました。

絵はその吉田城から見た豊川橋と吉田宿を描き、
川には荷舟が浮かび、天守閣は修理中のため足場
が掛けられ、漆喰塗りをする左官らとおどけた姿
の職人を描いた図です。



当時の豊川橋は長さ120間（216 m）と長く、岡崎の矢作橋、琵琶湖の
瀬田大橋とともに東海道三大橋のひとつです。

